



鑑真がんじんはなぜ日本ににぶっきょう仏教をつたをき伝ええに来たの

ぶっきょう かいりつ 仏教の戒律

ぶっきょう かいりつ
仏教には、仏ほとけ（シャカ）がただ定めた、かいりつ戒律というおきてがあります。「かい戒」とは、「わる悪いことをしない。良いことを行う。ほかの人々のためにつくす。」という内容の、ぶっきょうと仏教徒がみずからまも守らなければならない、おきてのことです。「りつ律」とは、ぶっきょうと仏教徒という団体の内部のきそく規則で、これをやぶ破ると、がんじんばっせられます。鑑真がんじんが来る以前にも、日本ににかいりつ戒律がつた伝えられていました。しかし、まだ伝わってない部分があるため、かいりつ戒律の制度をせいど整えるには、ふ不じゅうぶんなものでした。そこで、ちゅうごく中国から、かいりつ戒律にそうくわしい僧きにき来てもらおうとしたわけです。

かいりつ そう かが 戒律にくわしい僧を探した

だい かいけんとうし したが とう ちゅうごく ようえい ぶしょう ねん ようしゅう
第9回遣唐使に従って、唐（中国）にわたった、栄叡・普照らは、742年に、揚州（ヤンチョウ）の大明寺で「りつ律」を教おしえていた鑑真がんじんを、たずねました。そして、日本にわたって、かいりつ戒律をつた伝えてくれる僧を、そう推せんしてくれるように、たの頼みました。しかし、がんじん鑑真の弟子は、だれもい行きたがらなかったため、がんじん鑑真は、じぶん自分が行くことにしました。

かい こうかい せいこう 6回めの航海で、ようやく成功

がんじん鑑真は、日本へのこうかい航海に、5回も失敗し、6回めの754年に、ようやく成功しました。その間に、あいだ両方の目りょうほうが、め見えなくなりました。それでも、763年に、ねん唐招提寺で76歳でな亡くなるまで、かいりつ戒律をつた伝えるどりよく努力を、つづ続けました。（監修・田代 脩）

